

第 27 回佐久新校再編実施計画懇話会

日時：令和 7 年 7 月 30 日（水）
午後 6 時から午後 7 時 30 分
会場：長野県佐久合同庁舎講堂

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 構成員の増員について

4 新構成員自己紹介

5 会議事項

（１）第 26 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

（２）学びのイメージについて

（３）校名選考について

（４）施設整備基本計画について

6 その他

第 28 回佐久新校再編実施計画懇話会について

【日時】現在調整中

【会場】現在調整中

7 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

佐久新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

◎ = 座長

	区分	氏名	所属等	新規
1	自治体	畠山 啓二	佐久市 副市長	
2		神津 長生	佐久市教育委員会 教育長	○
3		篠原 秀郷	南佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長	
4	産業界	坂川 和志	佐久商工会議所 副会頭	
5		渡辺 仁	佐久総合病院 統括院長	
6		白鳥 敬日瑚	マイクロストーン株式会社 代表取締役社長	
7	学識 経験者	坂江 千寿子	佐久大学 学長	
8	地域	◎吉岡 道明	佐久市教育委員会 前教育長	
9		廣末 恵子	社会医療法人恵仁会 医師	
10		滝沢 裕之	佐久地域振興局 局長	
11	同窓会	吉岡 徹	野沢北高等学校同窓会 会長	
12		長田 芳子	野沢南高等学校同窓会 会長	
13	P T A	後小路 正人	野沢北高等学校 P T A 会長	○
14		小林 京子	野沢南高等学校 P T A 会長	○
15		山崎 由香	全佐久 P T A 連合会 顧問	○
16	学校 関係者	相原 修	佐久中学校長会 会長	
17		白鳥 貴文	佐久小学校長会 会長	
18	再編 対象校	永井 柊	野沢北高等学校 生徒会長	
19		相澤 寛公朗	野沢北高等学校 生徒会副会長	
20		岩下 ことい	野沢北高等学校 生徒会副会長	
21		土屋 夢萌	野沢南高等学校 生徒会長	
22		塩川 那美	野沢南高等学校 生徒会副会長	
23		月岡 宏人	野沢南高等学校 生徒会副会長	
24		柳沢 敬	野沢北高等学校 校長	
25		赤羽根 弦	野沢北高等学校 教諭	
26		中村 信秋	野沢南高等学校 校長	
27		齋藤 桂似郎	野沢南高等学校 教諭	

事務局

野沢北高等学校		野沢南高等学校		高校再編推進室	
田中 聡	(教頭)・事務局長	篠原 豪	(全・教頭)・副事務局長	柳沢 勝美	主幹指導主事
赤羽根 弦		篠原 俊介	(定・教頭)	土橋 邦彦	主任指導主事 (佐久新校担当)
澤田 浩文		齋藤桂似郎		高橋 正俊	主任指導主事 (佐久新校副担当)
清水 貴弘		山口 達之		貝野 宗司	主事 (佐久新校担当)
磯田 涼太		阿藤 正彦		学びの改革支援課	
		小須田勝夫		高野 英美	主任指導主事 (佐久新校担当)

第 26 回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和 7 年（2025 年） 5 月 1 日（木） 18 時 00 分～19 時 30 分
場 所	長野県佐久合同庁舎 講堂
出 席 (敬称略)	吉岡道明、畠山啓二、篠原秀郷、渡辺仁、白鳥敬日瑚、廣末恵子、滝沢裕之、吉岡徹、長田芳子、片桐美和子、竹内由貴、相原修、白鳥貴文、永井柊、相沢寛公朗、岩下ことい、土屋夢萌、塩川那美、月岡宏人、柳沢敬、赤羽根弦、中村信秋、齋藤桂似郎 以上 23 名
傍聴者	16 名（うち報道 1 名）
事務局	野 沢 北 高 校：澤田教諭、清水教諭、磯田教諭 野 沢 南 高 校：篠原（俊）教頭、山口教諭、阿藤教諭、小須田教諭 県教育委員会：柳沢主幹指導主事、土橋主任指導主事
当日資料	次第、第 25 回懇話会まとめ、再編実施基本計画、開校までのスケジュール、配置計画案

会議事項

- (1) 第 25 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 令和 7 年度のスケジュールについて
- (3) 施設整備基本計画策定に向けた配置計画について

主な内容(要旨)

(1) 第 25 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

事務局から説明。 質疑、意見なし。

(2) 令和 7 年度のスケジュールについて

懇話会の意義およびこれまでの議論における現段階での決定事項と抱えている課題について確認。

＜懇話会の意義、現段階での決定事項＞

- 懇話会は、新校開校に向け地域とともに進めていくことが大切であることから県教育委員会が主催。懇話会は決定機関ではなく、新校設置に向けた必要事項に対する意見交換の場。原則、公開。
- 開校年度は令和 11 年度、募集学級数は全日制 8 学級程度、定時制 1 学級。
- 校地は野沢北高校を活用。県として現校地西側、国道 141 号線に接続する水田 3 枚の内、北側の水田 2 枚分を拡幅。
- 統合方法は、全日制は年次統合、定時制は令和 13 年に新校へ移管。定時制の学びは今後検討。
- 施設整備は、大体育館、特別教室棟、音楽室棟は必要な改修を行い、引き続き活用する前提のうえ、校地拡幅した新たな敷地条件による施設整備の最適化を検討。校地拡幅部分は、駐車場とハンドボールコートを設置。プールは除却。一足制の検討。

＜現段階で抱えている課題＞

- 新校の設置学科および学びのイメージ変更案の検討。現在、両校で行われているクラブ活動や生徒会の活動場所について検討。定時制の学びについて検討。
- 校地拡幅部駐車場への車でのアクセス方法について。

【質疑・意見】 →高校再編推進室回答 →事務局回答

- ・駐車場へのアクセスについて、拡幅部駐車場とグラウンドの間にある市道は狭い。また、国道 141 号線西側の側道を使用した迂回については、側道が狭いことから交通量が増えると住人に迷惑をかけることになる。そう考えると使用するためには道路整備が必要だと思う。信号機が設置できればその心配もなくなるのではないか。
- ・再編実施基本計画の設置課程に変更が生じた場合はどのような手続きを踏むのか。
→設置課程に変更が生じた場合は、県教育委員会定例会に諮り、変更を承認してもらう必要がある。
- ・資料 5 ページの学びのイメージも変更になるということか。
→そのとおり。変更案について、現在、両校職員・事務局で慎重に検討を進めており、次回懇話会で示し、構成員の皆様からご意見をいただく予定。

- ・学びのイメージについて、目指す学校像の表現がわかりづらい。そのため地域の理解を得られない。現在、佐久地域から他地区へ生徒の流出が起きており、生徒の進路実現を行う学校であるとしっかり地域に示す必要がある。新校は進学の拠点校を作ることが出発点であったのだから、もっと進学を前面に出した学びのイメージとするべき。
- ・学びのイメージについては、誰に向けてのチラシであるかということが大事。対象とする人たちがわかりやすい表現にすることが重要。
→学びのイメージについては、現在、地域の皆様からいただいた意見を参考に両校職員と事務局で鋭意検討中。非常に多くの皆様から求められているのは、子どもたちの進路実現を叶えることができる学校。そこで、一つは理数科を発展させた学科、もう一つは教科を横断するリベラルアーツ的な学びができる新しい普通科の設置を考えている。地域の子どもたちが様々な学び、特に両校で推進している探究的な学びを通じ、目指す進路実現ができる進学校を目指している。次回懇話会において、ある程度形にしたイメージ案をお示しする。
- ・目指す学校像を具体的にイメージすることは難しいので、生徒目線のプロモーションビデオなどがあるとより具体性を持ってイメージしやすくなると思う。

令和7年度のスケジュールについて高校再編推進室から説明。

- 施設整備については、施設整備基本計画を策定後、年度末までに基本設計を策定。次回懇話会で工期スケジュールを示すが、フェーズ1の整備面積が大幅に増加したことから工期期間が予定より長くなり開校時にフェーズ1の一部が完成していないことや埋蔵文化財包蔵地調査の影響が出ることが予想される。
- 校名募集は、要項策定の準備を進め、設置学科や学びのイメージが確定した後に募集を行う。
- 設置学科、学びのイメージの変更案検討。
- 広報は、引き続き実施。新校HP立ち上げ業務も実施。

【質疑・意見】 →高校再編推進室回答

- ・校名募集は、新校の具体的な学びが見えないと進めることができない。設置学科決定後の具体的な教育課程編成が非常に大変だが、今年度中には示せるように両校で検討を進めている。ぜひ、学びについて具体的なイメージができてから校名選考を進めて欲しい。
- ・学びのイメージが確定した後に校名選考に入ってもらいたい。
- ・学びのイメージが確定していない中で広報活動を実施して、実のあるものになるのか。新校について説明する際、学びが決まっていないのに校名が決まっているというのは本末転倒である。スケジュールの中にある校名選考については焦る必要はなく、学びが決まってから実施すべきである。
→校名募集については、新校の学びのイメージが確定してから実施する。ただし、校名募集に必要な枠組み、具体的には要項等については、検討を進めさせていただく。
- ・学びのイメージが勉強ばかりで堅苦しい感じがする。高校生としての自由性など生徒目線の表現があってもいいと思う。
- ・令和11年度開校時に新校舎を使用できる状態になっているのか。
→工期スケジュールを次回懇話会で示す。現在、開校時にフェーズ1の新校舎使用を目指しているが、フェーズ1で施工する整備面積の増加や埋蔵文化財包蔵地調査の影響から、一部完成していないことが予想される。

(3) 施設整備基本計画策定に向けた配置計画について

配置計画についてパワーポイント資料および模型を使用し設計チームから説明。

(4) その他

【意見】

- ・大学進学を実現させるためには、それぞれの希望する大学に応じた学習が不可欠であり、その実現には単位制の導入が適していると考える。
- ・地域や佐久市近辺へ向けた広報は欠かせないが、地域外への情報発信にも力を入れる必要がある。

その他

【次回】第27回懇話会

日程：調整中

会場：調整中

夢のある未来社会を地域と共創する「知」の探究校

目指す学校像

- 高い志の進路を実現し、地域・日本・世界に貢献する人を育む
- 新時代を切り拓く「創造力」と「探究心」を育む
- 他者との協働により、多様な価値観を共有し、豊かな人間性を育む

学際領域に関する学科

確かな学力と教養を獲得する単位制

- 文理融合のリベラルアーツ的な学び
- 探究を核とした学び
- 大学・研究機関・企業・自治体などと協働した学び



1 年次：必修科目や多彩な校外学習等により探究の基礎・基本を習得

2～3 年次：単位制の自由度を最大限活用して「自らの学びをデザイン」

理数科学選択群



人文科学選択群

- ◇ 選択群を中心に、個々の興味関心により主体的に科目選択
- ◇ 学校内外の自主的・創造的な活動による単位取得
海外留学、資格取得、大学の講義を受講、地元企業との共同研究 など
- ◇ 多様な地域資源を活用したグローバルな探究活動
- ◇ 生徒の活動に伴走するアカデミックサポーター（OB・OG）との連携
- ☆ 医学部・デジタル系の大学や海外の大学への進学など、生徒が希望する多様な進路実現を目指す



佐久エリア共学共創コンソーシアム

多様な人々と協働し、地域の未来社会を共創するコミュニティ



大学

医療機関

地元企業

自治体

研究機関



◆定時制課程 普通科（単位制）：3年間での卒業や全日制の授業を履修可能とする新システム◆

【目指す学校像のイメージ】

夢のある平和な未来を共創する「知」の探究校

- 高い志で夢の未来を実現し、地域・日本・世界に貢献する人を育む
- 基礎学力に加え、新時代を切り拓く「創造力」と「探究心」を育む
- 他者との協働により、多様な価値観を共有し、豊かな人間性を育む

【第一志望の成就】

難関大学や医学部、国公立・私立大学および海外大学進学や資格取得等
生徒が目指す、多様な“第一志望”を実現

【グローバルな視野で自らの未来をデザインする新しい進学校】

- ◇ 進路実現に向け主体的に科目選択できる「進学重視型単位制」 ◇
- ◇ アカデミックサポーター（OB・OG）と連携した進学指導の充実 ◇
- ◇ 大学・研究機関・企業・自治体などと協働した探究・研究活動 ◇
- ◇ 主体的な諸活動（諸行事、生徒会活動、部活動、海外研修等） ◇



理数科を発展させた学科

設置学科
(名称未定)

新しい普通科(学際領域)



- ◇ 確かな根拠に基づく真理の追究
- ◇ 専門性の高い課題研究・校外研修を通した科学的な学び



- ◇ 正解のない問いを粘り強く追究
- ◇ 探究的な手法を核に、主体的・協働的に深める学び

STEAM 教育

リベラルアーツ

【佐久エリア共学共創コンソーシアム

学びを支える地域のコミュニティ】



地元企業



研究機関



大学



医療機関



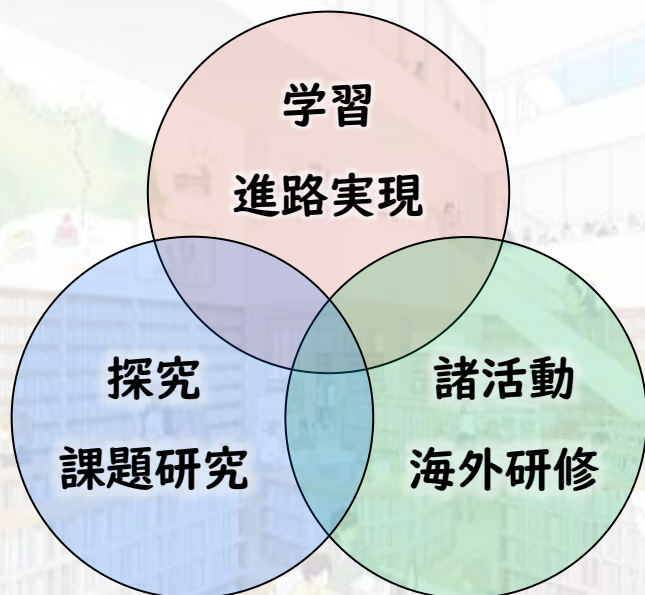
自治体

- ◇ STEAM : Science・Technology・Engineering・Arts・Mathematics の5分野を総合的に繋いだ学び
- ◇ リベラルアーツ : 文理を融合し特定の分野に偏らず幅広い知識や教養を身につけることを目指した学問

定時制課程 普通科 単位制 : 3年での卒業や全日制との連携を可能とする新しいシステムを構想中

「やりたい」に挑戦し、進路実現できる 進学校

【学びの3つの柱】



第一志望合格

進学重視型単位制 → 希望に合わせた科目選択
アカデミックサポーター → 受験指導の充実



教科の枠を超えた
発展的な授業



生徒が望む進路実現

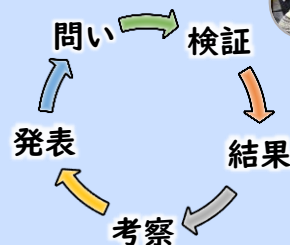
難関・国公立大・私立大
医学部 海外大学 など

学校丸ごと探究

学びのサイクルを意識した取り組み



探究



課題研究



充実の諸活動



部活動



文化祭



体育祭



強歩大会
など



海外研修



佐久新校 校名決定の流れ(案)

長野県教育委員会

新校事務局・WG

先進校の校名選考方法等の情報提供

選考の観点、選考方法の検討・原案作成

懇話会

選考の観点、選考方法について意見交換

佐久新校「校名」募集要項(案)の作成

選考の観点、選考方法の再検討

懇話会

佐久新校校名募集要項(案)について意見交換

佐久新校「校名」募集要項の決定

新校の学びが確定してから校名募集を実施

佐久新校「校名」募集の公募開始

応募された校名案の整理

懇話会構成員による【一次】投票

懇話会

公募結果の説明、校名案候補の一次選考

商標権調査及び有識者への相談

校名案候補 一次選考の整理

懇話会構成員による【二次】投票

懇話会

校名案候補の決定(最終選考)

同名校、権利侵害等の調査

再編対象校の校長から県教育委員会へ具申

教育委員会定例会で校名案の決定

(予定)令和10年県議会11月定例会で正式決定

○佐久新校全体スケジュール（案）

2025. 6時点

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度
設計工程	基本計画提出	基本計画策定	基本設計	実施設計 建築確認申請 各種適合判定		仮使用申請1 各種検査	仮使用申請2 各種検査	●完了検査	
工事工程				フェーズ1 (解体・新築)		フェーズ2 (解体・新築)		●フェーズ3 (解体) (外構)	
引越			●除却施設内の備品等移動			●教室・管理諸室(新校舎に移転) ●特別教室・管理諸室(仮校舎に移転)	定時制移転●	●特別教室一部 (新校舎に移転) ●特別教室・管理諸室 (特別教室棟に移転)	
学校の体制 (佐久新校・ 野沢北高校)	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	野沢北高校 1年:5CR/2年:5CR/3年:5CR 計15CR	佐久新校 1年:8CR 野沢北高校 2年:5CR/3年:5CR 計18CR	佐久新校 1年:8CR/2年:8CR 野沢北高校 3年:5CR 計21CR	佐久新校 1年:8CR/2年:8CR/3年:8CR 計24CR 佐久新校定時制1~4年 計4CR	佐久新校 1年:8CR/2年:8CR/3年:8CR 計24CR 佐久新校定時制1~4年 計4CR
学校の体制 (野沢南高校)	野沢南高校 1年:4CR/2年:5CR/3年:5CR 計14CR 野沢南高校定時制1~4年 計4CR	野沢南高校 1年:4CR/2年:4CR/3年:5CR 計13CR 野沢南高校定時制1~4年 計4CR	野沢南高校 1年:4CR/2年:4CR/3年:4CR 計12CR 野沢南高校定時制1~4年 計4CR	野沢南高校 1年:4CR/2年:4CR/3年:4CR 計12CR 野沢南高校定時制1~4年 計4CR	野沢南高校 1年:4CR/2年:4CR/3年:4CR 計12CR 野沢南高校定時制1~4年 計4CR	野沢南高校 2年:4CR/3年:4CR 計8CR 野沢南高校定時制1~4年 計4CR	野沢南高校 3年:4CR 計4CR 野沢南高校定時制1~4年 計4CR	—	—

新校開校

▼R11年夏休み
引越を想定

▼R13年冬休み
引越を想定